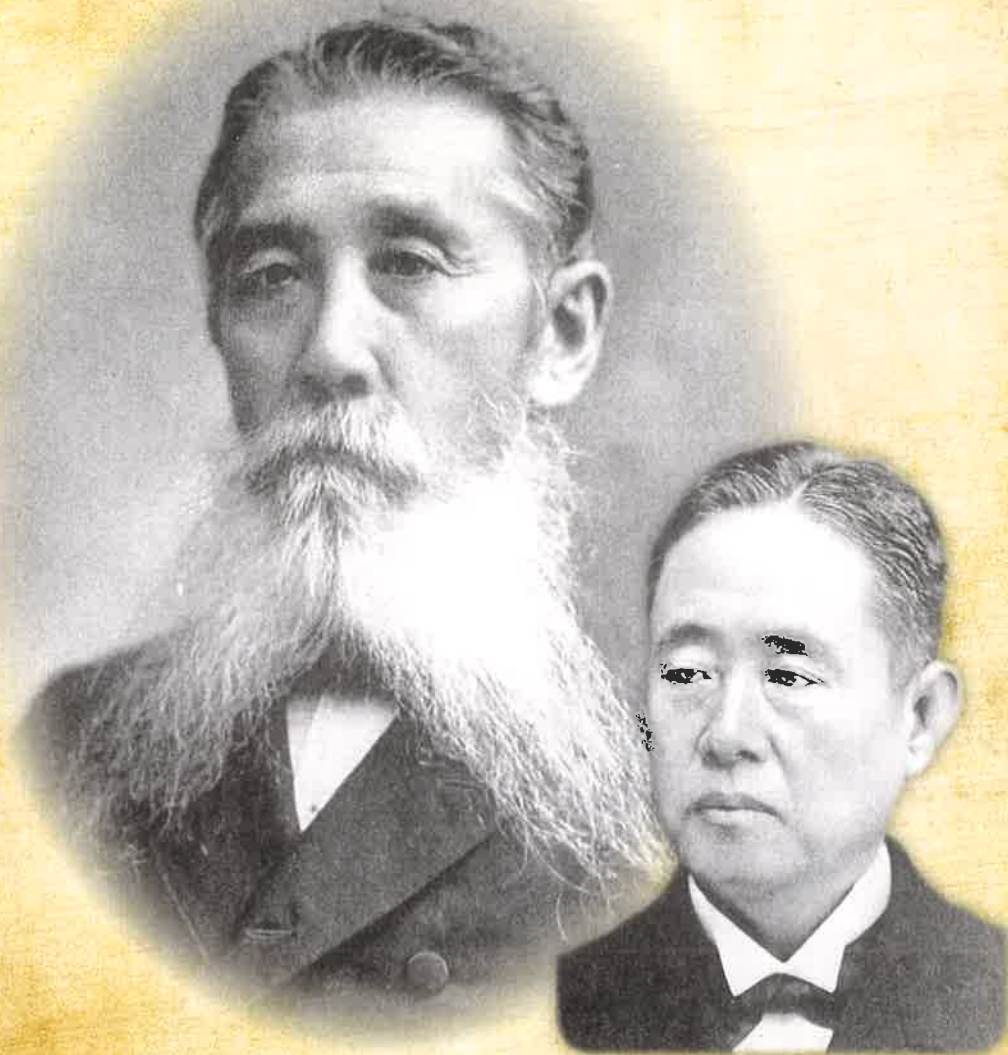


会報

板垣会

第8号



板垣 退助

片岡 健吉



板垣と土佐勤王党



名古屋大学名誉教授
日本福祉大学名誉教授

川田 稔

大正から昭和初期にかけて、国民から選出

された議会政党が政治を主導する、いわゆる

政党政治の時代があった。筆者はおもにこの

時代を研究しているが、当時の有力な政党政

治家のなかには高知出身者が少なくない。浜

口雄幸、大石正巳、片岡直温、仙石貢、富田幸

次郎らである。

彼らはいずれも、多かれ少なかれ、自由民権

運動の影響を受けている。

たとえば、浜口雄幸は、中学校時代を回想

し、こう述べている。

「当時高知県においては、板垣伯の一派

が中央の志を得ずして郷里に帰り、政治結

社を組織し、大いに政治思想の養成と政治

的運動とに努められておった最中であつた。

……「私は」政治思想の最も旺盛を極めた

る明治十年代の土佐の青年の雰囲気の内

に、知らず知らずの間に政治家たるの素質

を養成せられ、政治家たる種子を植え付け

られたように思う。」

（『随感録』）

この回想でもふれられているが、その自由民

権運動において、板垣退助は象徴的存在だっ

た。板垣がそのような存在となったのは、彼が

かつて明治政府の首脳の人だったからであ

り、その知名度と政治的影響力のゆえだった。

では、なぜ板垣は明治政府中枢に位置を占

めていたのだろうか。それは、よく知られている

ように、維新政府を作り上げた中心勢力であ

る薩長土肥四藩のうちで、彼が土佐藩を代表

する存在だったからである。

この四藩のうち、幕末から尊皇運動を展開

していたのは薩摩、長州、土佐で、明治政府内

でも当初主導権はこの三藩にあつた。肥前佐

賀藩は、維新直前に三藩に加わり、その強大

な軍事力によって戊辰戦争で功績を挙げ、明

治政府の一角を占めることとなったにすぎな

い。

板垣は、戊辰戦争で土佐藩兵を率いて転戦

した。だが、幕末からの、いわゆる勤王の志士で
はない。むしろ幕末に薩摩、長州の勤王派と連
繋して動いていた土佐勤王党と対立する、吉
田東洋・派に属していたとみられている。東洋
死後この一派が、土佐勤王党を弾圧した中心
勢力となった。したがって、維新政府中枢の木
戸、西郷、大久保ら薩長出身者（いずれも幕末
からの勤王派）からすれば、板垣は、異質の、む
しろかつての土佐藩勤王勢力の敵対者ともい
うべき存在だった。

その板垣が、なぜ維新政府の首脳部に加わ
ることができたのだろうか。筆者はこのことを
疑問に思っていた。ところが、先日、『土佐史談』
二四五号に掲載された、公文豪「幕末の板垣
退助」を読む機会があり、この疑問が氷解し
た。

公文氏の見解によれば、板垣はもともと水
戸学の影響を受けており、水戸学的な土勤
王派ともいべき存在だった。国学の影響が強
かった土佐勤王党とは一線を画していたが、尊
皇論という点では共通していた。山内容堂に
よる勤王党弾圧によって、武市瑞山ら勤王党
首脳が失われたあと、板垣と交流のあった中
岡慎太郎が、板垣と勤王党メンバーとの提携
を斡旋し、「七郡の勤王党領袖が倒幕拳兵の
ため、乾「板垣」退助を首領とすることに一決
した」というのである。

すでに板垣は中岡らとともに「薩土倒幕の盟約」に加わっていた。勤王党メンバーのなかには板垣らとの「積年の確執」から提携に異議を唱えるものもあつたが、「大勢は上土中に乾派の同志を加えること」によって瑞山の遺志「一藩勤王」を実行する好機とし、倒幕の旗幟の下に義盟を結ぶに至った」とのことである。

こうして土佐勤王党は板垣を首領とし、鳥羽伏見の戦い後、土佐藩兵部隊「迅衝隊」（指令板垣）の中核となる。安岡章太郎『流離譚』でもよく知られているように、土佐勤王党メンバーは、戊辰戦争で土佐藩兵として官軍側に加わり奮戦、各地を転戦した。そして、多くが維新政府にも協力している。板垣は戊辰戦争で土佐藩兵を率いた実績から、土佐藩の代表格で維新政府中枢に入ることとなる。そのさい木戸・西郷・大久保らと連繋のあつた土佐勤王党との関係も考慮されたことは想像に難くない。

だが、その後板垣は、いわゆる征韓論をめぐる明治政府内の政争に敗れ、下野し立志社を創設する。しかし、多くの土佐勤王党メンバーは立志社に加わらず、古勤王党と称することになる。その経緯も興味深いが、本稿はひとまずこれで筆を置きたい。

板垣会館について



板垣会館の全景



土佐史談会 副会長 今井 章博

とから始まる。

明治四十二年八月発行の『土佐名鑑』に高野寺の写真が掲載されている。

下の写真の左に松が写っているが、これが（板垣）伯遺愛の老松」か。



板垣会館は昭和十二年、高野寺境内に建設され、四月六日に落成式を迎えている。当時、高知市では土讃線全通を記念し、柳原を中心会場とした南国土佐大博覧会が開催中であつた。

会館の建設は、高野寺第四代住職の谷信讚師が、昭和八年七月十六日、財団法人板垣伯銅像記念碑建設同志会の開催した第十五周忌法要の節に「目下境内には伯に関係のあるものと云つては唯僅かに伯遺愛の老松が一本残るばかりで、他に何一つなく、この維新の憲政の元帥を偲ぶには餘りに淋しい」と提唱したこ

会館の方は、昭和九年、師の主旨に賛同し高知県医師会会長でもあつた片山徳治らをはじめとする準備会が持たれ、翌年一月に同会館建設期成会が池田永馬、大西正太郎（土佐伝説会会長）、安芸義清（教育家）の諸氏を幹事として組織せられた。この年三月に片山は死亡。その遺志も継いでいこうと十一月から建設資金の募金に着手し、「大日本相撲協会は板垣伯の相撲道信仰の為寄せられたる恩顧の顧

み、寄附興行の厚意を表し一日の純益壹萬七千九百五十餘円の喜捨を随一の財源とし更に関西相撲協会のを加へ式萬六百餘円」〔板垣退助先生銅像供出録〕、さらに翌年五月には高野寺の出資を合わせ三万三千元あまりとなった。〔憲政と土佐〕

この募金に関する相撲協会の後援については『頭山精神』等に詳述されている。

また、会館建設寄付興業として土佐出身の義太夫、六世竹本土佐太夫によりその引退記念興業も兼ねて高知市堀詰座で、昭和十一年九月二十三日から五日間開催された。土佐太夫は板垣の盟友後藤象二郎のもとで一時書生を務め、後藤から義太夫を勧められ、文楽人形浄瑠璃の立役者として大成した人物で、「憲政の祖板垣退助翁を偲ぶに相応しい催し」であった。

同年十月二十三日に地鎮祭が挙行されたが、それに先立ち、予定敷地が高野寺本堂の西側と重なるため、五日から本堂の一部改築にとりかかり、屋根瓦まで下ろし板垣会館建設に伴う前哨的工事を開始した。建物は、木造二階建、建築様式は周囲建物との均衡し上洋趣味を加味した和洋折衷で、県立工業学校建築科森本長太郎氏の設計になり同校建築科直営で工事を進めることになった。〔大阪朝日新聞高知版〕昭和十一年十月七日

設計を担当した森本長太郎氏は、明治二十六年六月の生まれ。名古屋高等工業学校を卒業後、大阪住友建築課長から高知県立工業学校建築科長への転任であった。その後、昭和十四年五月に校長心得となり翌年二月二十一日から三代目校長に就任している。戦後は、昭和十九年日本建築学会の名譽会員に、また高知県建築士会会長も務めている。氏設計の現存の建造物としては、昭和四年に建築された安田町明神口橋（魚梁瀬森林鉄道、現在は町道）がある。

地鎮祭の列席者は発願者である谷高野寺住職を始め、板垣会館建設後援会員、学校長代表、社会事業団体代表、工事担当者、その他の名士婦人会員約七十名に及んだ。式は、谷住職の手で酒水が行われ、ついで全員の読経法衆の後、池田後援会長に代って谷住職が鍬入れを行い、谷住職を先頭に森本工事担当者、市長（収入役代理）、西田政党代表、大西社会事業団体代表、高野寺壇信徒総代等順次焚香をし最後に祝電披露、至心廻向があつて、午前十一時に散会した。〔土陽新聞〕昭和十一年十月二十日

そして昭和十二年四月六日、落成式を迎えることになる。

落成式には、頭山満翁も駆けつけた。翁は三日から高知入りし、野村茂久馬邸に投宿し

ている。野村翁は寄付金に関し、頭山翁を介し相撲協会との間を取り持つなど昵懇であった。また、昭和十六年、板垣会によって『憲政と土佐』が刊行されているが、当時貴族院議員であつた野村翁の出資によるものであつた。

頭山翁は四日、新田の板垣旧邸を移築した潮江埋立公園の見晴し楼を訪ねている。「大作りな二階建である。（略）二階へ梯子段を上ると、上り口の室の押し入れから抜け道があつて、台所の辺まで通じて居るのも、物騒がせだつた往年を思はせる。」〔藤本尚則編『頭山精神』〕ものであつた。

下の写真は、

潮江埋立公園の見晴し楼。空き家となつていた新田の旧邸を湯原甚太郎が埋立公園へ移築し、見晴楼として料亭経営をやつていた。（橋詰延壽著『高知史跡 城東・城南コース』）その後「県政会の長老の組織せる大松倶楽部の尽力で他の有志の篤志を待ち昨春（昭和十六年）板垣先生が西郷、木戸、大久保、と



共に廢藩置県を協議した旧開誠館跡のここに移築した。家作は封建特権層を偲ぶ構造であるが、図々報国の雄風は火なくして燃へてをる。「板垣会」板垣退助先生銅像供出録」この旧邸、元は山内容堂の釣御殿であった。

落成式当日の六日朝、頭山翁は投宿先であつた野村邸を出て高知公園、高知城を見、板垣伯の銅像前で記念撮影後、鏡川河畔で開催中の土讃線開通記念博覧会に入つて一覽、それから山内神社と天満宮とに参拝、午後一時からの会館落成式に臨んだ。

「落成式は、頭山翁を始め、板垣の岐阜遭難の時身を挺して犯人相原を逮捕した内藤魯一氏の長男、愛知県農会技師農学士内藤乾藏氏、東京から、外孫宮地茂秋氏や宮崎宜政、佐々木武行、藤本尚則の諸氏、岐阜市の松尾市長、県内では陸軍中将坂本政右衛門氏、前代議士大西

正幹氏、上村県学務部長、県会市会各議員、齋藤市会議長、濱田町村会長、外各町村長、高知市各町総代等約六百



（「頭山精神」より）

名が参列。壁間には頭山翁揮毫「板垣会館」の額、祭壇の両側には「板垣雖死自由不死」「精誠奉公終始不渝」と同じく頭山翁揮毫の聯が懸つて居る。

「定刻午後一時、建設後援会評議委員谷流水氏が開会の辞を述べ、高野寺住職谷信賛師以下下衆僧に依り、仏式を以て荘嚴なる式典を執行、頭山翁来賓総代として拝礼、終つて建設発願者として谷信賛氏、後援会代表者池田永馬氏が式辞を朗読、後援会員西川壽恵吉氏工事報告をなして後、大藏、通信、農林各大臣の祝辞（大西正太郎氏代読）を始め望月圭介氏（水野吉太郎氏代読）小林高知県知事、川淵高知市長、高野寺管長（草繁全宜氏代読）、県会議長（浅井茂猪氏代読）、学校代表石倉高知高等学校長、政友会、民政党各支部長等の祝辞あり、祝電約五百通披露の後、頭山翁の発声により聖壽万歳を奉唱、山本正心氏閉会の辞を述べて盛會裡に無事式を終り、引き続き午後四時から祝宴を開いた。尚余興として投餅を行ひ、また高知公園の故伯銅像下に集合した稚児百五十余名が市中を練り歩いて大賑わひであつた。

会館は白亜の木像二階建て、建坪二百六坪、階下は事務室集談室、図書閲覧室、陳列室、食堂。階上の大広間を行動とし、其他控室等あり、なほ館内に故伯に関する図書記念品を収

蔵してある。」（「頭山精神」）

会館の構造であるが、多くの資料が木造二階建てとなつて居るが、『博物館研究』9（5）（日本博物館協会昭和11年発行）「板垣會館の建設」では、「最初木造の予定を変更し、鉄筋コンクリート二階建、延坪二百二十二坪、公費五萬円を以て計画し直され、遺品陳列室の他に講堂修養堂、社会室などが設けられることになつた。」とあるが、どうもその後の経済事情等により元の設計のまま木造となつたようである。

この落成式にあたり谷住職が協力者に宛てた招待状が残つて居る。

「肅啓時下愈御清適奉大賀候、陳者夙に奉仰御高配候板垣會館の儀、諸事順調之進捗を遂げ竣工を見候に付「板垣死すとも自由は死せず」の警句と共に県政史上永久に感銘を印せる岐阜遭難紀念日たる来る四月六日午後一時を期し、落成の式典を挙行致候間、何卒御貴臨の榮を賜り度、茲に御招請申上候 敬具

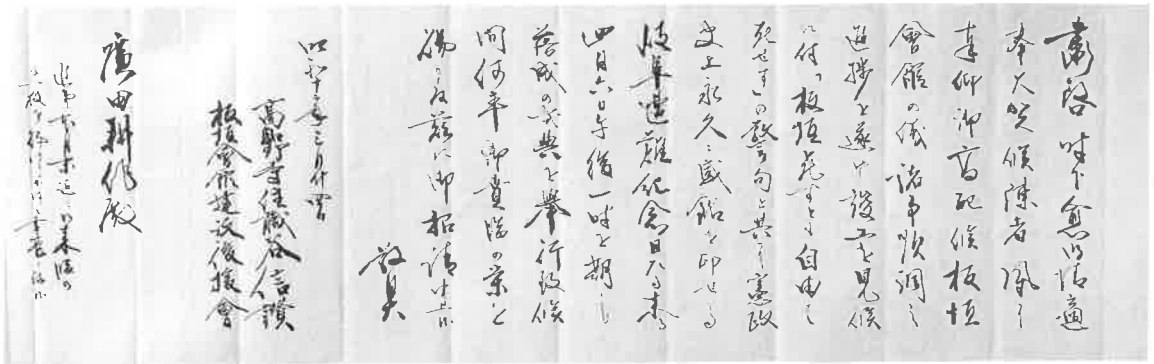
昭和十二年三月廿四日

高野寺住職谷信讚

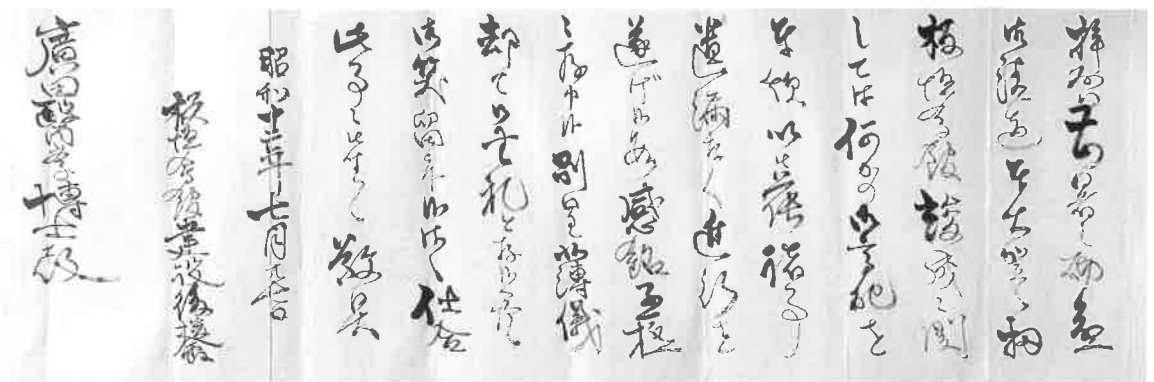
板垣會館建設後援会

廣田耕作殿

追而本月末迄に御來臨の御一報を賜はり候は、幸甚に存候」（廣田建美氏所蔵）



廣田耕作氏宛谷信讚師書簡



廣田博士宛板垣会館建設後援会書簡



記念品として配られた菓子盆の写真（門田一彦氏所蔵）。「板垣会館落成記念 高野寺」と書かれている。

宛名の廣田耕作氏は、医学博士で、昭和17年からは高知県医師会会長を務めている。また、同氏は、板垣会館完成後に開催されていた常設の講座に講師としても参加している。

この落成式に記念品として、土佐古代塗りの菓子盆5枚一組が高野寺から参加者に配られた。

その後、廣田氏の許にまた、後援会から次の書簡が届いている。

「拝啓甚暑之砌、愈御清適奉大賀候、扱板垣会館竣成に關しては何かの御高配を奉煩、以御蔭諸事遺漏なく進行を遂げ候段、感銘至極に存申候、別呈薄儀却て御無礼と存候へ共、御笑留被下候は、仕合此事に御座候敬具

昭和十二年七月廿七日

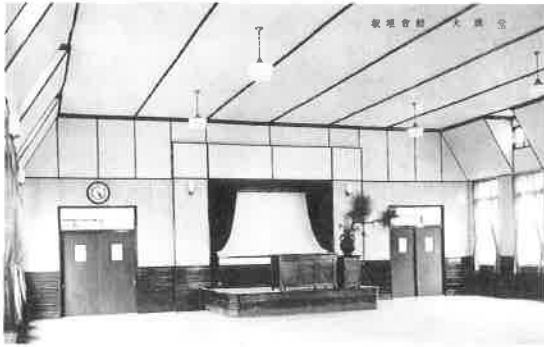
板垣会館建設後援会
廣田医学博士殿」

開館後は、様々な文化事業の会場として供されることになり、高知の文化新興発展に大いに寄与した。

主な事業を『南学』から拾ってみる

- ・昭和13年5月25日、26日 山崎闇斎先生関係資料展覧会 県内外より寄せられた資料約二百点が出品され七百名の入館者があった
- ・同年7月25日～8月25日 土佐文化協会主催の夏期大衆講座開催。第一種を朝五時半から青年講座とし、毎回六十名を下らず。第二種を大衆講座とし六時半から始め、出席者は平均百数十人。

・昭和14年7月25日～8月25日 第二回夏季総合大講座、土佐文化協会、高野寺強化部の主催で日々出席者百五六十人から二百人。午前六時集合ラジオ体操の後、六時十分開講。



大講堂

・同年 期成会会長も務めた池田永馬が「板垣死すとも」について「凶変時の言葉」と題し講演

- ・昭和17年7月25日～8月23日 第五回夏期総合講座
- ・昭和18年 第六回夏期総合講座
- ・同年11月15日 「土佐人を語る座談会」出席は中島鹿吉外12名

これら事業は社会福祉事業にも関心を持ち尽力した谷信讃師の功績が大きく、昭和32年発行『六代新報』の「人物遍路」に次のように紹介されている。

「戦前に同寺境内に板垣会館を建て、文化講演を随時開き殊に毎年夏季文化講座を開き、各界の名士を講師に招き地方の文化向上に尽されていることは有名であり、今も尚継続されている。高野寺の興隆に力をいたし、社会福祉事業にも貢献して県市当局は勿論、中央からも再三表彰されている。」

谷信讃師は、明治十一年徳島県板野郡鳴門村(鳴門市)に生まれ、明治二十八年高野山中学に入学、三十一年卒業すると高野山大学に進み、更に京都東寺の専門学校に入り勉学に勤しむ。その後郷里徳島に帰り、重楽寺、吉祥時、宝珠寺住職を経て、大正十一年、高知へ転じ高野寺住職となる。高野寺に普住すると直ちに密教婦人会を組織する。板垣会館竣工時



に記念の絵葉書集が発行されているが、この密教婦人会の発行となっている。

その板垣会館も、昭和二十年七月四日の空襲により高野寺と共に焼失した。戦後は、高野寺の復興に多大なる尽力をしたが、昭和三十七年八十五歳の生涯を閉じられた。



『讃仰 信讃大和尚』より
晩年の写真

戦争の諸原因

伯爵 板垣退助



高知市立自由民権記念館友の会幹事 岡崎 清恵

(英文翻訳)

極東の一帝国の一市民として、私の思いは常に国際平和の問題に関係している。一八九九年にロシア皇帝陛下により、第一回万国平和会議が召集され、いま同じ皇帝によって第二回会議が召集されていて、得も言い表せないほどの喜びと祝意の理由となっている。しかし若し、更に二層の完成に向けて、賢人たちに対して提言することが許されるなら、私は来たるべき平和会議について数言述べざるを控えることができない。

若し誰かが水の流れを止めたいと願うなら、源泉を訪ねて止めるより、良いことはない。そこで問題が生じる。国際紛争の原因を除去し、かくして戦争の悲しみを取り去ること、紛争が発生し、敵対行動が事実上始まってしまった後に、戦争の悲惨や野蠻行為を抑止しようと努めることのいずれがすぐれているのかということである。

強大国の主権者たちや権力者たちが、自分たちの学者たちや指導者たちと、平和の促進

のため熱心に働くとしても、国際紛争の数は減らないし、戦争勃発を恐れるすべての国の人民は決して安心していない。これは戦争の源泉が止められていないからである。

戦争の原因は三つあると確信している。(1) 領土拡張の目的で、武力によって外国領土をとること。(2) 他の国民に対して、商業の特権を拒否すること。(3) 他の民族を排除すること。若しも我等がこれらの戦争の諸原因を除去できたら、最も野蠻な国民ですら、他国に戦争をしかけられない。相互の交際と交易により世界の住民は永久の喜びと幸福に到ることができる。

諸国家の建設の目的と相互の交際と交易の原理が相互依存である以上、相互の交際と交易の原則に反する政府は決して正しい原理の上に建設されてはいない。そして武力による領土拡張の外国侵略は絶対主義と軍国主義から発生する。戦争の苦しみをも受けるのは人民である以上、戦争は大抵人民の敵であ

る。それ故、自由と平等に基づき世論により問題の自由な決定のための規則をもつ国では、平和の原則が勝つ。他方絶対主義と軍国主義に支配されている国では、人民の権利と利益が犯され、世論に対して全く重きが置かれていないから領土的侵略性が非常に強い。平和と絶対主義の原理は共存できない。相互の交際の原理は強制的侵略や土地収奪とは調和できない。人民の平和と幸福に無関心で、一人の人物の意思に依存する政府の形態は、国際平和を促進するのに最も不適切であると云わざるを得ない。

商業上の排除についても同様である。この争いの結果人々は自分たちの市場を独占してしまい、常に自分たちの影響する領域を拡大しようとし、軍事力で自分たちの領土に他の土地を併合するまで止めない。「商売は国旗に従う」という諺がこの思想を表現している。市場の独占の結果は関税率の引き上げと、他国民が交易の特権を持つのを禁止し、かくして終いには国際の平和を破壊することとなる。それ故若し我々がいやしくも国際平和を維持したいならば、世界関税会議を国際平和会議に先立って開催すべきであろう。国内産業の保護に必要な程度で、しかも相互の交際と交易の原則を犯すほどに不合理でない関税率を認め合うことにより、戦争の経済的な原因を除去

することが必要である。

人種問題も又戦争の原因である。天は人類を公平に見做し、人權の区別をしない。法の許す範囲内で天は万人に自分が喜ぶ処に行き、脚下に緑の大地があり、かつ頭上が天に保護されているどこにでも住む権利を与えている。このため、未開の土地に住む人々は治外法権により保護されている。そして文明化した土地では諸国の法により保護されている。かくして、彼らは生活を楽しみ、自らの仕事を悩まされずにできる。人類のこの権利が無視されると、人々は人権的な悪感情に導かれ、それ故に私益独占の原則に立つて働き、移民者を迫害し排除することになり、彼らの平和を奪うことになる。これは相互の交際と交易の原則に反することとなる。そして人間性の見地からは許されない。それ故若しも我々が強国の条約により平和を維持したいなら、我々は他の民族を排除するような不法性から生じる戦争の諸原因を取り除く国際的な合意の手段で努力すべきである。

ここまで、私は国際的な戦争の諸原因を指摘してきた。そしてこれらの諸原因が除去されない限り、我々は国際平和を決して実現できない。国際平和が実現されるまでは、強国は何らかの非常事態に備えるため自らの武装を平和時ですら維持せざるを得なくなる。こ

の武装された平和は人民の負担を増し、人民をして塵灰に落とし入れることになりかねない。

私は具体的な方法で戦争の諸原因を根絶しようとする多くの賢者について聞いたことがないが不思議なことである。国際紛争が発生した後でそれを解決しよう

と努力すること、すなわち強国が互いに鉄と火力で交戦した後、彼らが野蕃と悲惨に陥らないかと心配し、ダムダム弾の使用や他の残虐行為を禁止し、陸上や海上戦に関して規制を作ること―それは、大きな原因を無視し、特別な結果を過大評価している。

言うまでもなく、これらの規制の在るのは無いよりかずっと良い。しかし心底から平和を望む人々は、これらのことで決して満足できない。武装の制限、それは来るべき平和会議で取り上げられることだろうが、とても大事なことである。私はそのような規制が採択されることをただ希望する。しかし強国が根本

的に戦争の諸原因を取り除かなければ、我々は戦争の消滅を決して期待できない。戦争が存在するのが許される限り、強国が武装を保持戦争の準備をするのは合理的である。それでは我々は如何なる方法で戦争の諸原因を除去すべきだろうか。第一は絶対的な君



主たちが自由で立憲的な政府を採用するよう導くべく努力をするために強国会議を召集することである。関税問題については、国際会議を開き夫々の国の関税率を平等にするよう努めよ。人種問題についてもまた強国会議を召集し国際的な方法で問題解決に当たれ。これが私の考えでは、源泉を止め、かくして戦争の全ての付随する諸原因を除去する方法である。

私はこれらの意見を長い間維持してきた。

そしていま、それらを来るべき平和会議の議長閣下に提示したい。仮に私の提案が少しでも、議長や会議の評議員たちに認められ、平和の大義に少しでも貢献できれば、私は大変名誉と思う。私はこの機会を利用して、会議の議長や人間の貴い大義のために結集された方々に、私の心からの敬意を表現するためにこの機会を利用して頂きたいと思う。

一九〇七(明治四十)年五月八日

東京 板垣退助

「板垣」の地名、人名、神社、銅像の研究



板垣歴史総合研究所 板垣 國和

板垣の地名

福井県、福井市「板垣」「板垣町」「西板垣町」
「板垣橋」「板垣橋通り」「足羽川の旧板垣船渡し」

福井県今立郡池田町「板垣」「板垣峠」「板垣隠通」「板垣坂」

山形県東根市「板垣大通り」「板垣小路」

「板垣北通り」「板垣新田」「板垣中通り」「板垣西小路」「板垣西通り」

山梨県甲府市「善光寺町板垣山」
高知県高知市「北薊野、板垣山」

人名 「人物」

板垣退助「自由党の初代総理、全国板垣姓

三万人のカリスマ的ヒーロー」

板垣薫五郎「西の退助、東の薫五郎」といわれた板垣神社に祀られた戊辰戦争の頃、北海道の松前藩の飛び地であった、山形県東根の偉大な開拓者、後のサクランボが有名」

板垣信形「退助翁の先祖、武田二四将筆頭家老」

板垣武四「元、札幌市長」

板垣清一郎「元、山形県知事」

板垣 正「元、遺族会、会長」

板垣征四郎「旧、陸軍大将 殉国七上の墓 三ヶ根山に眠る、シンガポール。セントサ島の降伏のギヤラリーで、ろう人形に会える」余談ではありますが、世界的指揮者「小沢征爾氏」は父親の友人の板垣征四郎の「征」と陸軍中将石原莞爾の「爾」のお名前を一字ずつ貰い征爾と付けたと言われています。

板垣と神社

1「福井市板垣町」「応神天皇を祀る八幡神社と天児屋根命を祀る春日神社が明治末年に両社が合併して板垣神社となる」

2「山形県東根市板垣新田地区内に板垣薫五郎の功績を祀った板垣神社がある。」「板垣は西の退助、東の薫五郎といわれた時期があった、北海道の松前藩の飛び地であった東根村の名主を務めた板垣薫五郎は明治元年の戊辰



戦争が起ると軍資金千両余りを調達し、当時この地を支配していた松前藩へ献金した。後に献上金が返還されると薫五郎は松林だった土地の開墾を計画し、もつて殖産富国を図ることを松前藩庁に請願し60ha余りを500両で払い下げに成功したのが明治2年だった。開墾募集の呼びかけで、明治3年に移住してきたのが12戸41名、近村から通つての者が27名だった。ここに初めて「板垣新田」が成立した。開墾に精励したが瘦せた土地で成果が上がらず、脱落者もでた。薫五郎は宅地家屋と私財総てを提供し開拓事業を發展させた「ここが退助先生と通じる者が有ります」後に県下に誇る果樹「サクランボ、りんご等」生産地となっている。

3「長野県上田原下之条古戦場の板垣神社

板垣退助先生のご先祖板垣信形公が戦死した上田原のお墓であるが入り口に赤い鳥井が有りくぐり抜けてお参りする屋根つきの威厳のある墓所で信形公は煙草が好きだったのでお線香の替わりに煙草を供えてきました。又、横に賽銭箱があり百円札を参拝記念にお供えしてきました。

4「伊勢神宮の板垣南御門

一般的には、神宮とは伊勢神宮の事である、外宮、内宮ともに御正殿の前方「南方」には東、西の宝殿があり、ご正殿と東宝殿、西宝殿を囲む四重の御垣を内から外へ「瑞牆みずがき」「内玉牆うちたまがき」「外玉牆そとたまがき」「板牆いたがき」と言い、板垣東西南北の外に番扉がある。一番奥の瑞牆の内を内院と言つて、もつとも清浄な聖域とする一番外側が

板垣で神域と民の域との境界線である。その通用口に板垣南御門がある。

「福井市神社研究家、松木玄月氏による」勢州森村1944年に生まれた私「板垣姓」は、この板垣御門と関係が有るかも知れない。

板垣先生と銅像

板垣退助 高知公園像「本山白雲作」

.. 岐阜公園像「柴田佳石作」

.. 日光 像「本山白雲作」

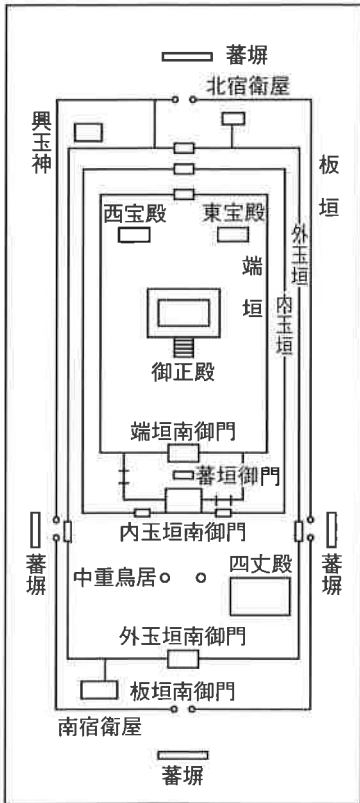
.. 青梅公園像「松野五秀作」

.. 憲政記念館「本山白雲作」

.. 国会議事堂「北村西望作」

その他、板垣三郎「冠者」兼信の石塔

武田信義の子武田兼信が甲斐の国、板垣村を治めたので板垣兼信と改名板垣姓の発祥地であるが、愛知県愛西市町方町尾張十二城237に石塔有り。



皇大神宮(内宮)御垣内平面図

- 岐阜板垣会「板垣退助先生感謝祭」
- 自民党岐阜市連 民間有志の会員や議員

「国会、県会、市会」による岐阜公園の板垣退助翁の銅像前にて玉串を捧げ感謝する会が二十数年続けられてきました2020年は新型コロナウイルス感染症拡散防止のため岐阜市主催のイベントについては9月末まで中止もしくは自粛することになりました。又、長期にわたり民間有志の会を支えて来られた先駆者の元会長が昨年10月19日86歳で逝去された岐阜のカリスマ的ヒーロー「澤田栄作氏」が偉大成る貢献者あつたので、ここにお悔やみ申し上げます。

アメリカに自由の女神像があり最近では、香港の若き民主の女神「周庭」あり、岐阜に高知に日光に青梅に国会に日本には自由の男神板垣退助翁ありですね。

私が元祖、高知板垣会に入会してから今年で22年理事長様はじめ理事の方々に変あたたかく迎えて下さり有り難かったです。平



成30年に脑梗塞になり高知板垣会に貢献出来ずに心苦しく思っております。なかでも高知板垣会にて板垣退助先生の子孫の高岡功太郎氏とお会い出来て8年、平成30年9月29日の歴史的「板垣退助先生薨去百年墓前祭」に参列できましたことを歴史の研究をしてる者の一生の宝です。「旧アサノセメント浅野財閥で板垣先生の玄孫浅野二郎氏、ひ孫浅野一氏、宮内庁主任研究官真辺美佐氏や楠木正成公の子孫、楠正至氏、後藤新平記念館元館長高橋力氏など沢山の錚々たる普段お会いできない人々でした。また、令和元年に狭心症を患いリハビリの毎日です。

昨年暮れ頃から、高知県を旅された方が私を訪ねてくる事があります。一人は東京都武蔵市の現役の国立病院のお医者さん乾俊哉さんと南国市の左右山の故、乾常美さん「司馬遼太郎氏の巧名ヶ辻の小説に出てくる元高知県観光課長」の娘さんや永源寺の「乾の大墓」保存会の「国府史跡保存会」会長、公文正博氏から岐阜の板垣さんを訪ねてはと紹介されお見えになりました。又、四月頃、新型コロナウイルスが気になるころ高知のNPO法人板垣会の公文豪さんからの紹介で私を訪ねて見えた元NHK岐阜支局勤務、元立命館大学教授「現、手にておラジオ代表」の津田正夫氏が見えました。「冊子、追伸の2020

年6月第6号、美濃の自由民権を訪ねて…板垣死すとも自由は死せず。余聞」のインタビューの記事のなかでわたしを紹介していただきました。体調不安の為に以前のように遠距離の活動が出来ませんが今後ともNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の明智の里、可見市より宜しくお願い申し上げます。



板垣サミット

事務局だより

板垣玄孫高岡功太郎氏講演

『板垣精神』を発行して

令和二年七月十六日、板垣没後法会の後、高知サンライズホテル（高知市本町二―二―三）において、今年の総会が行われた。その後、本会会員・玄孫高岡功太郎氏による、去年発行された著書「板垣精神」について、発行のいきさつ、経緯、その苦勞、内容について詳細な講演が行われた。真に、数年にわたつての苦闘とも言える、取り組みと情熱の結果であり、その一語一句の素直な言葉に、著者の並々ならぬ苦勞が感得され、深い感銘を覚えた。玄



講演中の高岡功太郎（写真 島崎順也氏提供）

孫ならではの、板垣一家伝来の資料もあり、その解説、それを現代人にわかりやすく仮名をふり、解析された苦勞は並のものではなく、六一四ページにもわたつた大冊と、内容の重さに、短時間とは言え、濃密な講演となつた。今年の「コロナ騒ぎ」の中、兵庫県伊丹市から遠路、ご来高いただき、今回は貴い講演までしていただいた、高岡氏に、深く感謝いたしたいと思ひます。

（谷 是記）

板垣会々員募集

年会費 2,000円

板垣退助顕彰に御協力を！

入会は別途振込用紙をご利用ください。

- 2020年11月30日 発行
- 発行者 古谷 俊夫
- 発行所 高知市本町2-2-31
- 特定非営利活動法人 板垣会
- TEL (0887) 55-2860

